

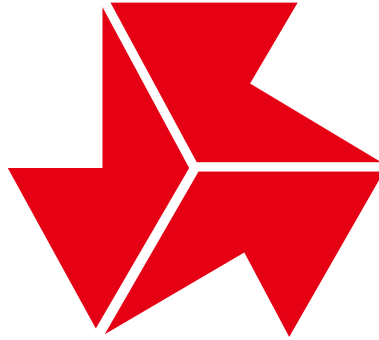
体育連

第 68 号
(令和 5 年度版)



2024

埼玉県高等学校体育連盟



高体連のマーク

競技は力であり、進歩は技の錬磨にまつ。しかし、競技者はこれをつつむ明朗な精神をもってせねばならない。

このマークを構成している三つのKはこれを意味している。

KRAFT

力

KUNST

技

KLARHEIT

明朗な精神

そして真紅の色彩は高い理想と希望に燃える若人の情熱を示すものである。

令和5年度 全国高等学校総合体育大会



総合ポスター

大会愛称

翔び立て若き翼 北海道総体 2023

スローガン

轟かせ魂の鼓動 北の大地へ大空へ

シンボルマーク



総合開会式

令和5年7月22日 北海きたえーる



埼玉県選手団の入場行進





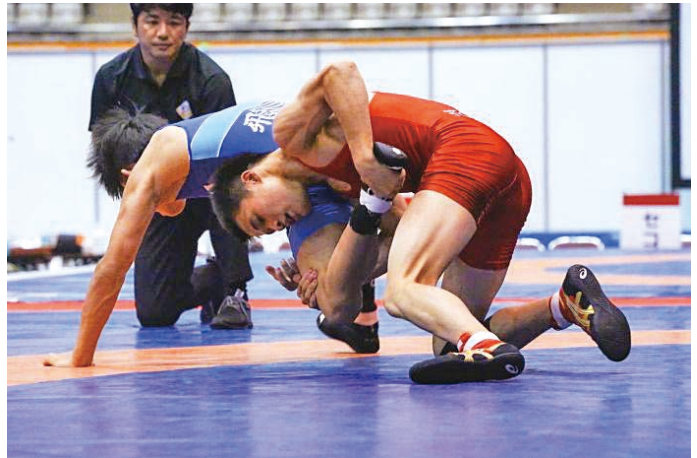
＜相撲＞団体優勝
埼玉栄高校



＜体操競技＞女子団体総合優勝
クラーク国際高校さいたまキャンパス



＜バドミントン＞男子シングルス優勝
沖本優大選手（埼玉栄）



＜レスリング＞男子 55kg級優勝
大脊戸逞斗選手（花咲徳栄）



＜レスリング＞男子 125kg級優勝
藤田宝星選手（花咲徳栄）



＜体操競技＞女子個人総合・跳馬・
段違い平行棒・ゆか優勝
岸里奈選手（クラーク国際さいたま）



＜バドミントン＞男子ダブルス優勝
沖本優大選手・角田洸介選手
（埼玉栄）



＜フェンシング＞男子サーブル優勝
伊藤羽舷選手（星槎国際川口）



＜柔道＞男子 100kg級優勝
平野匠啓選手（埼玉栄）



＜陸上競技＞女子走高跳優勝
高橋美月選手（埼玉栄）



＜ライフル射撃＞男子AR個人優勝
大山誠道選手（国際学院）



＜ウエイトリフティング＞男子 73kg級スナッチ優勝
内藤仁雄選手（埼玉栄）



＜ウエイトリフティング＞男子+102kg級スナッチ優勝
鈴木星空選手（埼玉栄）



＜ウエイトリフティング＞女子 71kg級
クリーン&ジャーク・トータル優勝
蓑田天選手（埼玉栄）



＜ライフル射撃＞男子B R 団体優勝
栄北高校



<陸上競技>女子三段跳優勝
田口侑楽選手（国際学院）



<競泳>男子200mバタフライ優勝
川野博大選手（武南）



<競泳>女子100m平泳ぎ優勝
加藤心富選手（春日部共栄）



<テニス>女子シングルス優勝
小高未織選手（浦和麗明）



<レスリング>女子53kg級優勝
尾西桜選手（埼玉栄）

令和5年度 全国高等学校総合体育大会等 埼玉県選手団 結団式

令和5年7月14日（金）
さいたま市文化センター大ホール



激励のことば
大野元裕 埼玉県知事



激励のことば
立石泰広 埼玉県議会議長



旗手
藤井ひなの
(埼玉平成高校 ソフトテニス部)



激励賞贈呈
岸 里奈
(クラーク国際高校 体操競技部)



誓いのことば
木村優駿
(県立大宮工業高校 自転車競技部)



埼玉県六校応援団による激励

令和5年度 学校総合体育大会 総合開会式

令和5年5月10日（水）
熊谷スポーツ文化公園陸上競技場



優勝杯返還



挨拶
臼倉 克典 県高体連会長



挨拶
松中 直司 県立学校部参事兼保健体育課長



激励の言葉
松山 治彦 埼玉陸上競技協会会長



選手宣誓
代表：浅沼 修帆（埼玉栄高校）



も く じ

グラビア	
あいさつ	会長 白 倉 克 典 ……2
特別寄稿	埼玉県教育局県立学校部参事兼保健体育課長 松 中 直 司 ……3
特別寄稿	埼玉県県民生活部スポーツ振興課長 浪 江 美 穂 ……4
特別寄稿	公益財団法人埼玉県スポーツ協会専務理事 久 保 正 美 ……5
専門部特集によせて	埼玉県高等学校体育連盟理事長 鈴 木 紀 幸 ……7
支部だより (東部・西部・南部・北部)	……8

専門部活動記録特集

1 陸上競技	12	19 テニス	134
2 バスケットボール	33	20 登山	141
3 サッカー	38	21 スケート	143
4 ソフトテニス	42	22 レスリング	145
5 卓球	47	23 ボクシング	149
6 ラグビー	54	24 フェンシング	153
7 ボート	61	25 ウエイトリフティング	160
8 柔道	65	26 スキー	163
9 剣道	70	27 ホッケー	168
10 体操	77	28 馬術	170
11 水泳	81	29 空手道	172
12 相撲	98	30 アーチェリー	179
13 バレーボール	102	31 カヌー	185
14 ソフトボール	106	32 なぎなた	189
15 バドミントン	110	33 少林寺拳法	191
16 自転車	120	34 ダンス	196
17 ハンドボール	124	35 ライフル射撃	200
18 弓道	129		

各種目専門部指導者紹介	206
研究部報告	207
定通部報告	209
埼玉県選手団成績一覧	220
第65回 座談会「部活動指導の現状と課題」	224
第66回 練習場めぐり その1 武南高等学校水泳部	241
その2 国際学院高等学校陸上競技部	243
第76回 学体協講習会「NO！スポハラ：生徒の主体性を育むコーチングの実践」	
大阪体育大学 教授 土 屋 裕 睦	247
本部事業・連盟概要	258
令和5年度表彰者一覧	260
編集委員	294

・表紙・題字 元会長 木 村 泰 夫

・表紙図 ドリコス (DOLICHOS：長距離走)、黒絵式パンアテナイア祭の壺

ニコクラテースの執政官ニコクラテスが所有した物。B.C.333 ロンドン大英博物館所蔵



あいさつ

埼玉県高等学校体育連盟会長 白倉 克典

令和5年4月から埼玉県高等学校体育連盟の会長を務めさせていただいております白倉でございます。大きな組織の運営に戸惑いを感じながらの1年でしたが、副会長をはじめ役員の皆様方、そして各学校の会員の皆様方から御理解、御支援をいただき、令和5年度の諸事業も滞りなく終了することができました。これも皆様方の御協力の賜と厚く御礼申し上げます。

さて、今年度を振り返ってみますと、新型コロナウイルス感染症が第5類に移行され、社会生活や学校生活への影響が大きく緩和されました。これは、部活動においても同様で、活動時間や練習内容の制約、公式大会での入場制限なども解除され、コロナが流行する前の状態に戻って活動が進められるようになりました。今後はさらに充実した練習や活動が行えることを期待しています。

本県高体連の主催大会においても、皆様の御協力と団結力に支えられ、ほぼ予定どおりの活動が実施できました。日々たゆまぬ努力を積み重ねてきた選手たちに、無事に成果発表の場を整えることができたことは、大会の運営に関わっていただいた各専門部の役員の皆様、各学校顧問の皆様、保護者の皆様の多大なる御協力があったことと、改めて感謝申し上げます。

また、今年度の全国高等学校総合体育大会は、大会愛称を「翔び立て若き翼 北海道総体2023」として、「轟かせ 魂の鼓動 北の大地へ 大空へ」の大会スローガンのもと、北海道を中心開催地として開催されました。

7月22日には秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席のもと、北海きたえーる会場にて総合開会式が行われ、ソフトテニス競技の代表選手が堂々たる入場行進をしてくれました。競技においては、女子体操競技に出場したクラーク記念国際高等学校さいたまが学校総合で優勝を果たし、中心選手である岸 里奈選手は、1年生ながら個人総合優勝も果たしました。また、相撲競技では、埼玉栄高等学校が5年ぶり11度目の団体優勝に輝きました。その他、個人競技においては、バドミントン競技において埼玉栄高等学校 沖本 優大選手が、ダブルス、シングルの2冠を達成、陸上競技においては、県立伊奈学園総合高等学校 緒方 陽平選手が、八種競技で優勝するなど本県高校生の競技力の高さを全国に示してくれました。

冬季種目の活躍を含めた、今年度のインターハイにおける入賞者数は、昨年度の90を大幅に更新し、112となりました。

さらに、全国高等学校ライフル射撃大会では、栄北高等学校がビームライフル男子団体が優勝を飾り、全国高等学校定時制通信制体育大会においては、団体6種目、個人2種目の優勝を含む14種目が入賞を果たしてくれました。

全国大会においては、他の都道府県も力をつけてきており、年々勝ち上がるのが難しくなっている中で、これだけ多くの成果を出すことができたのは、顧問の先生方の熱心な御指導と、陰ながら御支援いただいている保護者の皆様の御協力があったのものと感じております。あらためて、ここに感謝の意を表します。

さて、令和6年度には、指導者のインターハイと位置付けられております、全国高等学校体育連盟研究大会が埼玉県で開催されます。今年度は、本連盟内に準備委員会を設置し、大会開催に向けて、要項の整理、会場の確保、配宿等業者の選定などを進めてまいりました。大会主題は「Innovation～運動部活動の未来を拓く～」として、講演会では、東海大学 勝田 隆 教授から「コミュニケーションと向き合う～「分かち合う（共有）」という視点から」という演題で御講演いただく予定です。中学校段階においては、中学校体育連盟の主催大会に地域クラブが出場できるようになり、さらに部活動と地域クラブ活動の連携などが進んできている中、高等学校における部活動も時代に即した対応が求められています。そのような中で、埼玉県に全国の部活動指導者が集い、日頃の研究に基づく発表や情報交換を行うこの研究大会は大きな意味を持つことと思います。大会の運営には、各専門部の先生方の御協力が不可欠です。埼玉県の力を結集し、実りある全国大会にしていきたいと思っております。どうぞ、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本連盟のさらなる発展のため、学校関係者・保護者の皆様、さらに関係諸機関の皆様に、高校スポーツへのより一層の温かい御支援、御協力をお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。



特別寄稿

令和5年度を振り返って ～変化の先にある教育活動～

埼玉県教育局県立学校部参事兼保健体育課長 松 中 直 司

埼玉県高等学校体育連盟の皆様には、日頃、本県高等学校体育・スポーツの振興と発展に御尽力賜り、厚く御礼申し上げます。

社会に大きな影響を与えた新型コロナウイルス感染症も、令和5年5月に感染症法上の位置づけが5類感染症となり、ようやく人々の生活も従前の活発さを取り戻し始めました。とりわけ、体育・スポーツに目を向けますと、制限のない中での学校部活動や各種スポーツ大会の再開は、多くの生徒やスポーツファンが待ちわびた瞬間であったと推察します。

これまでのコロナ禍の中、貴連盟の皆様方には、適切な感染防止対策と教育活動に御尽力いただいたことに、心より敬意を表し、感謝申し上げます。

そのような中、世界情勢に目を向けると国々の紛争や世界的な物価高、また記録的な円安などにより、今も社会生活への影響が続いています。さらに記録的な猛暑や令和6年1月1日に発災した令和6年能登半島地震など、自然災害にも大変苦しまされた1年となりました。学校は、コロナ禍を経て生じた社会の変化やこれまでの異常が日常となるような自然環境の変化に適応し、教育活動の充実と生徒たちの健康と安全を実現していくことが求められます。これまでにないスピードで進む社会変化やいつ起こるかかわからない各種災害などに対し、常に一歩先を見据えた対応と備えが必要となります。

私たちが直面する課題は多岐にわたりますが、真に大切なものを守るために、変わることを恐れずに前向きな変化を起こしていくことが、将来に向けて学校教育の意義や価値を確かなものにしていくことに繋がるものと思っています。

さて、令和5年度の専門部及び定通部の大会等を振り返りますと、本県主催の関東大会として、6月に弓道、レスリング、少林寺拳法、空手道の4競技が開催され、10月には登山大会が開催されました。各専門部の皆様方の御尽力により、無事終了することができましたことに、改めて御礼を申し上げます。

7月から8月には、北海道、山形県、栃木県、和歌山県の4県で「翔び立て若き翼 北海道総体 2023」が開催されました。入賞数は、冬季大会及びインターハイ以外の全国大会を含めて、団体23、個人102の合計125を数えました。全国高等学校定時制通信制大会においては、団体6、個人14の合計20の入賞を果たしました。

さらに、鹿児島県で開催となりました「燃ゆる感動かごしま国体」では、総合成績で天皇杯第5位、皇后杯第4位という素晴らしい成績を収められ、今年度も本県の競技力の高さを全国に強く印象付けていただきました。

これらの結果は、生徒の奮闘努力はもとより、先生方の日頃の御指導をはじめ、貴連盟各専門部と各競技団体との組織的な連携による選手育成・強化の賜物であるとともに、先生方の熱意と情熱に敬意を表します。令和6年度開催の「ありがとうを強さに変えて 北部九州総体

2024」や名称を新たに開催される「国民スポーツ大会」等においても、各専門部の飛躍を大いに期待いたします。

研究部に目を向けますと、令和6年度に本県にて開催される第59回全国高等学校体育連盟研究大会に向けて、研究活動や大会運営の準備を進めていただいております。この大会は、高等学校体育・スポーツ指導者の資質向上を図るとともに、当面する諸問題について情報交換し、高等学校教育の一環としての体育・スポーツの振興・発展に資することを目的としております。実り多き埼玉大会となりますよう、引き続き着実な準備をお願いいたします。令和6年1月の高等学校保健体育研究協議会の全体会におきましては、研究部委員長より「持続可能な運動部活動の運営」をテーマに、現在部活動運営が抱えている課題やその課題の解決に取り組む研究部の活動について説明していただきました。また、令和5年度鳥取県大会の様子を報告していただき、今後の運動部活動の運営課題とともに令和6年度埼玉県大会の開催に向けて、貴重な情報共有をさせていただきました。

令和5年度の実技研修や運動部活動指導者講習会につきましては、令和元年度以降、実に4年ぶりに参集による開催を実施することができました。実施後のアンケートでは、改めて研修の重要性と先生方の熱意を感じることができました。他方、ICTの有効活用や教職員の負担軽減の観点から、第2回体育主任会及び高等学校保健体育研究協議会は、昨年度に続きオンラインによる開催といたしました。役員をはじめ参加者の御協力の下、活発な研究協議や情報交換を行っていただき、保健体育科教員の資質向上に向けて大変有意義なものとなりました。今後も、より多くの先生方が主体的に御参加いただける事業となるよう、内容の充実や実施方法の工夫等に取り組んでまいります。

また、令和4年12月に国が策定した「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」に基づき、県では、中学校部活動の地域移行に取り組んでおります。高等学校の部活動においても今後ますます地域との連携が大切となり、社会に開かれた教育課程の実現が重要となります。部活動の主役は生徒であり、その教育的効果は、これからも変わらないと考えております。今後も持続可能で多様な活動や学校の働き方改革の視点等を踏まえた適切な運営ができますよう、御理解と御協力をお願いいたします。

併せて、生徒の心身の健康管理、事故防止及び体罰・ハラスメントの根絶の徹底に御留意いただきますようお願いいたします。

県教育委員会といたしましても、外部指導者の配置拡大や適切な部活動実施に向けたフォローアップ等に取り組む、持続可能な部活動の実現に尽力してまいります。

結び、埼玉県高等学校体育連盟の一層の御支援・御協力をお願いいたしますとともに、貴連盟のますますの御発展を心から祈念申し上げます。



特別寄稿

輝く埼玉へ向けた本県スポーツの振興

埼玉県県民生活部 スポーツ振興課長 浪江 美穂

高体連会報第68号の発刊、誠におめでとうございます。
日頃から、埼玉県高等学校体育連盟の皆様には、本県スポーツの振興発展に御尽力を賜り、心から感謝申し上げます。

今年度を振り返りますと、5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に移行したことから、スポーツ分野におけるコロナ対策も大きく転換いたしました。観客数の制限撤廃や声出し応援の解禁など観戦ルールが緩和され、スポーツに関わる全ての人々が、スポーツを「する・みる・ささえる」楽しさを改めて感じた1年でもありました。

7月から8月にかけて行われた全国高等学校総合体育大会では、個人種目で10競技22種目（陸上競技、柔道、水泳（競泳）バドミントン、自転車、レスリング、フェンシング、ウェイトリフティング、体操、テニス）で優勝を果たしたほか、団体種目では埼玉栄高等学校の相撲部と、クラーク記念国際高等学校の体操部が優勝を果たしました。

制約が多かった学校の部活動もコロナ禍前の練習風景が戻り、選手たちは互いの顔を見ながら全力で活動に打ち込めるようになったこともあり、昨年より入賞数を22増やすことができました。頑張った選手たちに敬意を表すとともに、来年度以降更なる飛躍を期待しております。

10月には鹿児島県で特別国民体育大会が開催され、本県は天皇杯第5位（1613点）、皇后杯第4位（932点）という成績を取ることができました。今大会では、ソフトボール、バドミントン、ラグビーフットボールの3競技で競技別天皇杯、皇后杯を獲得したほか、23の種目で優勝することができました。

それぞれの会場で本県代表として活躍する高校生や、監督・コーチ・スタッフとして選手を支える高体連の先生方の姿を目の当たりにし、高体連の皆様が本県競技力向上に果たしている役割の大きさを実感いたしました。

国体終了後、同会場で開催された全国障害者スポーツ大会では、陸上競技や競泳などで高校生の活躍が光り、メダル総獲得数77個で、都道府県・指定都市全67団体中、第5位の成績を取ることができました。

障害の有無に関わらずスポーツに真摯に取り組む選手の姿はみる者を感動させ、障害に対する理解を深めるとともに、スポーツを通じた共生社会の実現の可能性を強く感じました。

さて、県では、本年度から「埼玉県スポーツ推進計画」を定め、「スポーツがはぐくむ輝く埼玉」を基本理念とした、2つの取組を進めております。

1つ目は、これまで別々に行っていた健常者アスリートと障害者アスリートの競技力向上事業を今年度から一体化しました。これにより、健常者・障害者ともにジュニアからトップアスリートまで一貫したサポート体制を整備することで、本県を代表して国際舞台で活躍するアスリートの発掘・育成・強化に努め、世界に羽ばたくアスリートを育成するとともに、スポーツ分野からの共生社会の実現を目指しております。

2つ目は、大規模スポーツ施設の整備です。国内主要大会の開催や競技力の向上、県民が水と親しむ環境の創出などの機能を備えた県内初の公営屋内50m水泳場の整備を、川口市神根運動場及び神根運動公園内に令和9年7月の開設を目指して進めております。

また、パラスポーツを含む多様な競技の競技力向上、県民のスポーツ実施率の向上、公園の賑わいの創出などを目的とし、上尾運動公園内にスポーツ科学拠点施設の整備を推進しております。障害者、健常者問わず、アスリートの運動能力を可視化し、競技力向上を支援するだけでなく、指導者の養成や、多様な競技のアスリートが集い高めあえる拠点として、合宿等ができる施設の整備についても行っていく予定です。また、メインアリーナを核とした公園全体の賑わいを創出し、公園内に集積するスポーツ施設を活かしたスポーツ総合拠点を目指しています。

引き続き、県のスポーツ施策に対しまして、御理解と御協力をお願い申し上げます。

結びに、埼玉県高等学校体育連盟の益々の御発展と、各加盟校の皆様のご更なる御活躍を心から祈念申し上げます。



特別寄稿

高体連の更なる発展を願って

公益財団法人埼玉県スポーツ協会 専務理事 久保正美

埼玉県高等学校体育連盟の皆様には、日頃から本県高等学校における体育・スポーツの充実・発展、とりわけ競技力の向上に多大なご尽力を賜り、心から厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響で、約3年間にわたり高校スポーツ界でも練習や試合などの活動が制限され、生徒や指導者の皆さんは大変苦勞されたと思います。昨年5月からは感染症法上の位置づけが5類に移行したことにより、徐々に日常の生活が戻ってきました。青春時代の真ただ中にいる生徒の皆さんには部活動を通じて仲間と共にスポーツを存分に楽しんでほしいと思います。

さて、令和5年度を振り返ると、全国高等学校総合体育大会夏季大会は、7月22日から8月21日までの期間、大会愛称「翔び立て若き翼 北海道総体2023」、大会スローガン「轟かせ 魂の鼓動 北の大地へ 大空へ」のもと、北海道を中心に30競技が開催されました。

埼玉県の代表として参加された選手の皆さんは、全国のトップアスリートと熱い戦いを繰り広げ、団体種目では、相撲団体において埼玉栄高校が5年ぶり11回目の優勝という快挙を成し遂げました。また、体操競技女子団体総合においてはクラーク記念国際高校さいたまキャンパスが初優勝という新たな歴史を刻みました。個人種目においても陸上競技、体操競技、柔道、競泳、テニス、バドミントン、自転車競技、レスリング、ウエイトリフティング、フェンシングで優勝を果し、団体・個人で24の優勝という素晴らしい活躍で、スポーツ埼玉の力を全国に示していただきました。冬季大会においても、埼玉栄高校が男子駅伝とアイスホッケーで第5位に入賞し、夏季大会・冬季大会合わせて112種目に入賞、昨年の90種目入賞から大きく飛躍する結果となりました。参加された選手の皆さんの活躍に大きな拍手を送るとともに、日頃からご指導いただいた先生方や支えてくださっているご家族にも感謝申し上げます。そして、本県高校生アスリートの更なる飛躍を期待しております。

埼玉県スポーツ協会では、スポーツ埼玉の更なる競技力向上を目指して、令和5年度から9年度を計画期間とする選手強化計画「彩の国アスリート5か年計画」を策定しました。この計画には、『国民スポーツ大会において常に天皇杯・皇后杯3位以上を獲得し、本会創立100周年に当たる令和7年の国民スポーツ大会で天皇杯優勝

を目指す』『国際大会における埼玉県ゆかりの選手8位入賞以上の人数500人以上』『スポーツ科学に基づく育成・強化推進体制の整備』という3つの目標を掲げています。特に、来年滋賀県で開催される国民スポーツ大会で優勝を目指すためには、高校生を中心とした少年種別の活躍が欠かせません。埼玉県スポーツ協会としても高等学校体育連盟をはじめ県内競技団体の皆さんと力を合わせ目標達成を目指してまいりますのでご協力をお願いいたします。

さて、埼玉県では現在スポーツ施設整備の大きなプロジェクトが進められています。ひとつは、川口市の神根運動公園内に建設される「県営屋内50m水泳場」です。これまで本県には大会を開催できる公営の屋内50mプールがなく、本県水泳界にとっての悲願でありました。50mメインプール、25mサブプール、飛込プールのそれぞれが水深を調節できる可動床を備え、観客席は3000席と全国大会や国際大会も開催できる本格的な施設で3年後の令和9年の開設が予定されています。

もうひとつは、上尾運動公園内の水上公園跡地に整備予定の「スポーツ科学拠点施設」です。多くの県民が訪れるスポーツの総合拠点として、パラアスリートを含むアスリートの競技力向上や県民の健康づくりに貢献するとともに、プロ・トップスポーツチームの試合など多様で高品質な体験価値を県民に提供し、スポーツの振興と賑わいの創出を通じた埼玉県の発展を目指す施設となる予定です。特に、5000人収容のメインアリーナは、バスケットボールやバレーボールなどのプロリーグなどの会場としても期待されます。また、既存の県立武道館や埼玉アイスアリーナ、陸上競技場などの施設と連携し、様々な競技のアスリートが活用することで、本県スポーツの更なるレベルアップが期待できます。

今年は、フランスのパリでオリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。すでに本県高体連出身の選手も日本代表に選出されていますが、これから行われる予選会で更に多くの選手が参加することになると思います。本県出身選手の活躍を皆さんとともに応援しましょう。

結びに、埼玉県高等学校体育連盟の益々のご発展と、選手の皆さんの更なるご活躍をお祈り申し上げます。

